

1. 第三者評価報告概要表

作成日 平成20年10月19日

【評価実施概要】

事業所番号	2873100560		
法人名	株式会社 メデカジャパン		
事業所名	川西ケアセンターそよ風		
所在地	川西市出在家町532-1 (電話) 072-757-6880		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成20年8月5日	評価確定日	平成20年12月12日

【情報提供票より】 (20年7月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 2 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	25 人	常勤21人, 非常勤4人, 常勤換算21人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨鉄筋 造り		
	2 階建ての	1~2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有(円) ④無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	④(300000 円) 無	有りの場合 償却の有無	④ / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (7月12日現在)

利用者人数	26 名	男性	2 名	女性	24 名
要介護1	2	要介護2	3		
要介護3	10	要介護4	10		
要介護5	1	要支援2			
年齢	平均 86,4 歳	最低	70 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人協和会協立病院 おおたに歯科 藤本医院 洪クリニック
---------	--------------------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは花のある暮らしを大切に気軽に立ち寄れる雰囲気づくりに配慮している。玄関周りには四季折々の草花が植えられ、ホーム内ではさりげなく季節の花を飾る等、家庭的で親しみのある環境作りがなされている。入居者一人ひとりがその人らしい暮らしができるよう、職員は受容と共感の姿勢にて、個々に合った言葉掛けや対応を心掛けている。入居者の健康管理では医療連携体制を整え、看護師の資格を有する職員を中心に日常の体調管理や医師との連絡調整が的確にとれるよう取り組んでいる。ホームでの暮らしが豊かで張りのある日々である為に、レクリエーションや旅行・音楽療法等を取り入れ、個々の入居者の希望や力量にそった支援に努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4)
	評価の結果は回覧し、全体会議で改善に向け取り組んでいる。評価結果は参加者の意見を十分に考慮し、参考にするよう努めている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 第三者4)
	自己評価はユニットごとに話し合った後、最終的に管理者、リーダーがまとめあげている。玄関先に評価の結果を置いて家族が確認できるよう配慮している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 第三者4, 5, 6)
	利用者家族・地域住民・地域包括支援センター・施設職員が参加し、定期的に開催している。評価結果を報告し、参加者の意見を業務に反映させるよう取り組んでいる。また、家族会も年に数回開催し、家族の意向・意見を大切にしながら、サービスの質向上に取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8)
	利用者一人ひとりの心身の状況・日々の生活について家族へ適切に管理報告はされている。定期的に「そよ風便り」「そよ風サロン」を発行し家族に配布しホームの近況を知らせている。特に終末期に対してはドクターと家族のつながりを密にしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3)
	地域の盆踊りや初詣は毎年参加しており、月に1回は地域の音楽喫茶店へお茶を飲みに行ったり、ボランティアによる活動も年々増加している。地理的に不便である部分もあるが、今後とも外出行事等には努めて取り組んでいく姿勢がうかがえる。

2. 第三者評価報告書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての独自の理念を掲げており、高齢者社会で果たす役割を理解しようとする姿勢がうかがえる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝朝礼で理念を唱和しており、ミーティングやカンファレンスにおいても理念を意識するよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の盆踊り・自治会の祭りに参加し地域住民との交流の機会を持っている。月1回、音楽喫茶店へお茶を飲みに行ったり、ボランティアによる歌の会・踊り・美容室等の受け入れに関しても増えている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価の結果はユニットで回覧し全体会議で改善に向け話し合っている。評価結果を玄関において家族等が確認できるよう配慮している。自己評価はユニット毎に話し合った後、最終的に管理者・リーダーがまとめあげている。</p>		
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>利用者家族・地域住民・地域包括支援センター・施設職員が参加し、定期的を開催している。評価結果を報告し、参加者の意見を業務に反映させるよう取り組んでいる。また、家族会も年に数回開催し、家族の意向・意見を大切にしながら、サービスの質向上に取り組んでいる。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議において市町担当者の意見を聞く機会があるとともに、市町が開催する会議に積極的に参加しており、ホームの質向上のために話し合っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者一人ひとりの心身の状況・日々の生活について家族へ適切に管理報告はされている。定期的に「そよ風便り」「そよ風サロン」を発行し家族に配布しホームの近況を知らせている。特に終末期に対してはドクターと家族のつながりを密にしている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置しているが利用は少ない。家族からの苦情や相談について意見書を作成し、対応する姿勢がうかがえる。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>リーダー格の異動等は家族に報告している。異動で入居者への影響を最小限に留めるように努めている。管理者・職員間の信頼関係を大切にし、サービスの質向上に取り組んでいる。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人で研修部を設けており、各部署から参加するよう研修に対して体制の整備が来ている。研修後は報告書を提出し全体会議で発表している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>川西市はグループホーム連絡会の設置は無いが、ケアマネージャーを通じて勉強会、総会に参加している。</p>		<p>市の協力を仰ぎ、事業所間での情報交換・意見交換を通じてサービスの向上に努めるために、グループホーム連絡会設立への働きかけを期待する。</p>
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者が安心してサービス利用ができるようホームの見学を支援すると共に、利用者の自宅訪問の機会もあり、利用者主体での対応に努めている。</p>		
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>認知症の悪化やADLの低下のある中で利用者の気持ちを汲み取っていくよう努め、分かり合える関係を大切にしている。また、職員間のカンファレンスを通じてその人らしく生活ができるよう意識付けを行っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>管理者・職員は利用者と家族の意見を最も重要と考えており、終末期や受診の対応についても可能な限り意見を受け入れ、対応している。入居時本人・家族から生活歴・ホームへの意向を聞きとり、利用者主体の支援ができるよう配慮している。</p>		
<p>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>カンファレンスに家族の参加があり、利用者や家族の意向を確認しながら利用者本位の視点で介護計画を立案している。対応方針の共有を図るために、医療スタッフ、家族等、ケアスタッフとの繰り返しの話し合いを重要としている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>ケアプランは3ヶ月に1回見直しを行っている。利用者に変化が生じた場合はその都度カンファレンスを開き対応している。また、月に1回モニタリングを実施している。×方式で介護計画の振り返りを行っている。個人記録も様式の改善に取り組んでいる。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々 ^{の要望} に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算の導入にて職員として看護師を配置し、日常の健康管理とともに状態変化に応じた的確な対応に努めている。かかりつけ医や協力医への通院は、入居者・家族の状況や要望に応じて柔軟に対応している。入居者の入退院に関しては面会等により関係者間での連携を深め、早期退院に向けた支援ができています。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の訪問診療医の受診がある。入居者・家族の希望にそった対応を心掛け、受診状況については家族や職員間で情報共有ができるよう取り組んでいる。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族等に入居者が重度化した場合や看取りについてのホームの方針を説明している。入居者の状態変化に応じて、家族・担当医・職員が話し合いを重ね方向性が統一されるよう取り組んでいる。状況に応じて入居者の病状の経過について医師から家族に説明する機会を設け、家族の理解と協力が得られるよう配慮している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>寄り添うケアを目指す中で入居者一人ひとりを尊重し、個々にあった言葉掛けや対応に努めている。接遇や個人情報について研修を実施し職員間での意識の向上を図っている。職員採用時、守秘義務の徹底のために契約を交わし意識付けを図っている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居時や日常の暮らしの中で、個々の生活のペースや、その日の本人の意向を把握し、入居者主体のケアができるよう取り組んでいる。入居者の心身の状態にそって、食事のペース・口腔ケアへの支援・排泄時の誘導等、一人ひとりに合った対応に努めている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>法人内で統一された献立をもとに食材の搬入があり、入居者の力を見極めながら、調理・盛り付け・後片付け等職員と共に行っている。入居者の食への関心や嗜好に配慮し、適宜メニューの変更を取り入れるなど、食べる意欲を高め食事が楽しみの時間になるよう工夫している。食前体操や食後の口腔ケアを実施し、入居者の身体状況に応じた支援を行っている。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入居者の身体状況に配慮しながら、可能な限り入居者の希望する時間帯に入浴できるよう取り組んでいる。入浴拒否については、職員間で検討し適宜シャワー浴や清拭を取り入れながら無理強いしない対応を心掛けている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>午前と午後にレクリエーションを取り入れ、ボランティアの協力も得ながら個々の入居者の思いを大切に支援している。ホーム内での役割として掃除・新聞取り・ごみ捨て・草花の世話等を手伝ってもらい、個々の力を見極めながら職員は見守りやさりげないサポートができています。月に1回音楽喫茶に行く機会を設け、入居者の気晴らしの場となっている。</p>		
25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>ホーム周辺の環境（ホームは交通量の多い道路に面して建てられている）と入居者のADLの低下もあり、気軽な外出ができにくい状況ではあるが、できる限り入居者の希望にそえるよう職員の勤務体制の整備に努めている。1年に1回バス旅行を企画し家族の協力のもと多くの入居者が参加ができるよう取り組んでいる。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>ホーム前の道路は交通量も多く、近くに踏み切りがある為、入居者の安全面に配慮し玄関は施錠している。ホーム内のエレベーターは施錠が無く、職員の見守りや付き添いのもと、入居者はホーム内を本人の思いにそって行き来している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署との連携のもと、年に2回の消防訓練を実施し、避難誘導や避難経路について確認している。地域と協力体制を築いていくために、運営推進会議の中で地域住民に協力を呼びかけている。災害時に備えて飲料水の備蓄がある。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内で献立作成している為、食事に関する入居者の要望・意向等についてはその都度伝えるよう取り組んでいる。入居者の咀嚼力の低下や誤嚥等に配慮し、食前体操の実施・きざみ食やミキサー食での対応・適切な食事介助や見守り等ができています。食事摂取量・水分摂取量は個々に記録し健康管理に活かしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は家庭的で穏かに過ごせるよう、リビングや廊下・玄関等に花や絵を飾り、照明は柔らかい暖色系で入居者の気持ちに配慮した環境作りがなされている。リビングや廊下等の清掃は行き届き、季節を感じさせる飾り付けや行事の写真の掲示は雑然とした印象にならないよう配置等に気配りがある。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各部屋にはソファ・テレビ・馴染みの家具等を置きくつろげる空間となっている。各部屋の表札には入居者のお気に入りの写真等をそえ、親しみが感じられると共に部屋間違いや混乱が生じないように配慮している。</p>		

は、重点項目。